

労山基金と他の山岳保険の比較

2022/9/26

項目	労山基金 (個人5口モデルプラン)	JRO 日本山岳救助機構 (山岳遭難対策制度)	YAMAP登山保険 (レスキュー保険)	モンベル山岳保険 (シンプルプランF114)
年費用	5,000	2,200 + α	4,800	6,340
入院費用	4,000 (日額) (上限210日・840,000)	—	—	—
通院費用	2,000 (日額) (上限50日・100,000)	—	—	—
死亡交付	100万	—	—	5万
救助捜索費用	150万～200万	550万	300万	100万
海外登山適用	救助捜索費用適用	—	—	—

A他の山岳保険との比較（労山基金の優位性、他の山岳保険で参考とする点）

① 労山基金の特長 ①互助制度である。加入者は掛け金を支払うのではなく補償の有効期間後に寄付金を納める後払い方式)

②交付範囲は交通事故および交通機関の事故を除く登山口から下山口までの山行中の事故が対象

③交付対象 入通院交付、死亡交付、救助捜索交付

④交付条件 事前に山行計画書が所属会・クラブに提出されていること

⑤加入者が加入時に指定できる選択肢は入通院口数である。救助捜索交付は入通院口数に応じて決定される。

(バランスが取れていて、効率的な制度運用ができる。入通院交付のみ、救助捜索のみという選択肢はない)

②他の山岳保険との比較

①JRO 救助捜索に特化した山岳保険であり、入通院・死亡には適用されない。加入者は別途補償策を確保する必要あり。保険料が廉価なのは1年間で会員に支払った救助捜索費用の合計を会員数で割った金額(事後分担金)を請求する方式のためである。安全登山の努力が保険料に反映する仕組みだ。

②YAMAP 保険料が労山基金5口と同レベルのものをみていくと入通院・死亡は補償対象としていない

③モンベル 保険料が労山基金5口と同レベルのものをみていくと入通院・死亡は補償対象としていない

④入通院を必要とする事故が多い現状の登山活動において、入通院を補償対象としている労山基金は、他の山岳保険に比較して優位性がある。また海外登山を適用対象としているのは労山基金のみ。

⑤救助捜索補償についてはJRO、YMAPに比較して少額であるが対応策検討中